



町内に伝わる民俗芸能が一堂に会した「蔵王の伝承芸能まつり」を1月28日、町ふるさと文化会館で開催しました。当日は招待芸能として丸森町指定無形民俗文化財の大内山伏神楽おおうちやまぶしを迎え、蔵王町指定無形民俗文化財の刈田嶺神社神楽さきかりゆう、榊流東根神楽、八雲神社神楽、小村崎田植踊・春駒、そして子供神楽として宮子供神楽、八雲神社児童神楽が披露されました。

町内での鑑賞会は2011年以来、13年ぶりの開催となりました。来場者からは「久しぶりに町内の伝承芸能をまとめて見られて良かった」、「来年もぜひまた見に来たい」といった感想が寄せられ、参加団体の皆さんからも「日ごろの練習の成果を見てもらえて良かった」、「鑑賞会を通して興味を持ってもらえたら嬉しい」といった声が聞かれました。

町内には現在、6つの神楽と3つの芸能が传承されています。これらは、地域の皆さんが伝統を大切にしてきた証であり、地域の誇りとなっています。神楽は各地区の神社の祭礼で奉納され、芸能は地域行事など

で披露されています。町ふるさと文化会館ほかで「蔵王町神楽カレンダー&マップ」を配布していますので、興味を持たれた方はぜひ各地区の神社へ足を運んで本格的な神楽を鑑賞してみてください。



おおうちやまぶし 大内山伏神楽(丸森町) 邪気払いや疫病退散の意味を持つ獅子舞の獅子に頭を噛んでもらうと、厄除けに加えて子供の場合は学力向上や無病息災のご利益があるとも言われます。

蔵王の伝承芸能まつり

2024年1月28日(日) 蔵王町ふるさと文化会館



刈田嶺神社神楽



宮子供神楽



榊流東根神楽



大内山伏神楽 (丸森町)



八雲神社児童神楽



八雲神社神楽



会場の様子



小村崎春駒



小村崎田植踊

文化財 散歩道

町内約90か所に文化財説明板を設置しています

町教育委員会では、町の歴史や文化財について町民の皆さんや観光で訪れた方々に町の魅力の一つとして広く知っていただくため、文化財説明板や案内看板など屋外表示物の設置を計画的に進めています。

令和4年度には「町指定文化財 願行寺遺跡出土土偶」(宮司区)、「蔵王刈田嶺神社狛犬」(遠刈田区)の説明板と、これまで入り口が分かりにくかった「町指定文化財 遠刈田製鉄所高炉跡」(遠刈田区)の案内看板を設置しました。令和5年度には蔵王信仰と登排路の変遷を伝える「王鳥神社の蔵王権現像」(円田中区)の説明板などを設置しました。

説明板はほぼ同一の規格で制作されていますので、ぜひ町内を探索して説明板を見つけてみてください。

今後は町内の歴史散策により役立てていただけるよう、各文化財や説明板の位置が分かる文化財めぐりマップの作成も計画しています。

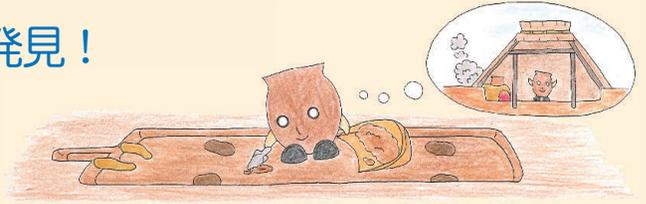


このほど設置した「王鳥神社の蔵王権現像」の説明板

発掘 速報

へいあん だてあな
平安時代の竪穴建物跡を発見！

いせき 東浦遺跡



東浦遺跡は永野区の県道沿いに南北に延びる町並み(旧笹谷街道永野宿^{しゆく})の東側、松川左岸の段丘面上にある遺跡です。これまで、縄文時代から古代にかけての土器片などの遺物が地表面で採集され、各時代の人々の活動痕跡が残る複合遺跡であると考えられていましたが、具体的な内容は不明でした。

今回、遺跡範囲内で地下に影響を与える工法による個人住宅の建築が計画されたことから、計画地の地下の状況を調べる確認調査を実施したところ、平安時代(約1,200年前)の竪穴建物跡1棟などの遺構が確認

されました。今回調査した遺跡北部の一角には、当時の集落が営まれていた可能性があります。また、竪穴建物の床には礫を加工した大きな台石が据えられており、何らかの作業場であった可能性も考えられます。



東浦遺跡で見つかった平安時代の竪穴建物跡と出土した土器

文化財 Q&A 指定文化財とは？

普段私たちが目にする町の風景の中に溶け込んでいる古い民家や神社、道端の石碑、塚や古墳、自然景観や町並み、地域に伝わる行事や芸能は、町の歴史に大きく関わる貴重な文化遺産です。これらはどれも一度失われてしまうと取り戻せないものです。このような、かけがえのない町民の財産を将来の世代へ伝えていくために、特に重要または貴重と評価されたものを町や県、国が指定文化財として保護し、その文化的価値を永続的に保つよう取り組んでいます。

指定文化財には、町と県がそれぞれの文化財保護条例に基づいて選定した町指定、県指定文化財と、国が文化財保護法に基づいて選定した重要文化財とがあり、さらに重要なものは国宝となります。町

内には現在、町指定文化財 25 件、県指定文化財 3 件、国指定重要文化財 1 件が所在しています。

これらの指定文化財の全てを国や自治体が所有・管理することは困難なため、所有者に対して修理や維持管理のための補助金を交付するなどして、支援、指導、助言を行なっています。あくまでも原則は現状保存であり、変更を加えようとする時には届け出が義務付けられています。このように、指定文化財の所有者は責任ある立場であり、その保存のために尽力していただいているのです。

なお、現時点で未指定の文化財の中にも、重要なものはあります。教育委員会ではこれらの調査・研究によって文化財的な価値を明確化すると同時に、所有者との保存に向けた合意形成や管理体制の構築を進めながら、順次指定文化財としての保護に取り組んでいくことにしています。

※町内の指定文化財について解説したリーフレットをございんホールなどで配布しています。

文化財トピックス

あがつま 我妻家住宅の保存修理工事進む

～町民向け見学会や中学生の作業体験会を開催～

重要文化財 我妻家住宅（曲竹北区）では、令和3～7年度の5か年計画で保存修理工事が進められています。工事の内容は、令和3・4年の福島県沖地震に伴う土壁の塗り直しなどの災害復旧工事と、屋根や床の経年劣化に伴う保存修理工事の大きく二つに分かれ、同時並行で行なわれています。

11月11日には、工事現場を一般公開する見学会を開催し、伝統工法による保存修理工事の様子をご覧ください。ただ、貴重な機会となりました。

また、9月5日に宮中学校、9月12日に円田中学校の1年生が「蔵王を知る研修」で伝統工法による文庫蔵の土壁の中塗り作業を体験。鏝こてを使って壁土を薄く塗り広げるにはコツが必要で、職人さんの手ほどきを受けながら一生懸命に取り組んでいました。

令和6年度には、主屋の茅葺屋根の葺き替えと壁工事が予定されています。我妻家住宅の主屋は、桁行19間半（長さ38m）という民家建築では稀に見る長大なもので、葺き替え工事の様子を間近に見られる見学会を開催する予定です。



保存修理工事見学会 前蔵のこけら葺き屋根の葺き替え現場。腐りにくい栗材の手割り板を幾重にも重ねて葺かれています。



伝統工法による土壁塗り作業の体験 宮中学校の生徒が「蔵王を知る研修」で文庫蔵の土壁の中塗り作業を体験しました。

がんぎょうじ どんぐう 願行寺遺跡出土土偶を特別公開

～全国的にも珍しい腰掛け姿のポーズ土偶～

町指定文化財 願行寺遺跡出土土偶は、全国的にも珍しい腰掛け姿のポーズ土偶として有名で、縄文時代の土偶を取り上げたテレビ番組などでも紹介されたことのある縄文の逸品です。個人の所有のため通常は非公開ですが、令和4年度に実施した文化財説明板の設置（宮司区の下別当消防詰所脇）に合わせて、所有者の方のご協力を得て特別公開を行ないました。

この土偶は今から約3,000年前の縄文時代晩期に作られたもので、発見者のお宅で大切に保管されてきたものです。このように腰を曲げた姿勢の土偶は、全国で2万点以上出土しているとされる縄文時代の土偶の中でも30数例しか知られていない貴重なものです。戦前までの日本でも一般的だった「座産ざさん」と呼ばれる出産時の姿勢を表現したもので、具体的な出産の場面を表現することで安産への強い願いを込めたのではないかとされています。



最新の情報はWEBでチェック！！

蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ

どきだんどつコム <http://www.dokitan.com>

蔵王町の歴史と文化財 どきたん通信 No.008

令和6年（2024年）3月発行 [不定期発行]

蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦5番地

TEL 0224-33-2018 FAX 0224-33-2019

E-Mail info@dokitan.com WEB <http://www.dokitan.com>